

### パプリカの仕立て法と果実特性

パプリカの促成栽培において、土耕栽培では2本仕立てが商品果収量が最も多く、商品果率も高かった。種類別では赤色系（スーザン、スピリット）と黄色系（オロベル）が収量が多く、商品果率も高かった。橙色系（パプリオレンジ）は収量は少ないが、糖度が高かった。

農業研究センター農産園芸研究所野菜部（担当者：彌富道男）

### 研究のねらい

パプリカは新規野菜として国内での需要が増加しているが、そのほとんどを海外の輸入物に頼っているのが現状である。国内においては若干パプリカの生育特性、栽培技術について検討され始めており、本県においてもH2年にカラーピーマンについての研究事例はあるが、パプリカについては検討がなされておらず早急な栽培技術の確立が望まれている。そこで、本試験では促成栽培におけるパプリカの仕立て法及び品種特性を土耕栽培において明らかにする。

### 研究の成果

- 1) 年内の初期収量は2本仕立てで多く、仕立て数が増えると減少した（図1）。
- 2) 商品果収量は、初期収量の多い2本仕立てで多くなった（図1、表1）。
- 3) 商品果率は、2本仕立てで高くなる傾向が認められた（表1）。
- 4) 1果重は、2～4本仕立てまでは仕立て本数にかかわらず同程度で、150～160gであった（図1、表1）。
- 5) 果皮色別では、収量は赤色系が最も多く、次いで黄色系、橙色系であった。商品果率も赤色系で高く、次いで黄色系、橙系の順であった（表2）。
- 6) 糖度は、橙色系で7.7%と最も高く、赤色系、黄色系は6.7%～7.3%であった（表2）。
- 7) 果実の大果率（150g以上の果実）は、赤系の「スピリット」が最も高かった（表2）。

### 普及上の留意点

- 1) 主枝採りが基本であるが、生育に応じて側枝にも着果させて果数を確保する。
- 2) 夜間の最低温度は19℃で管理する必要がある。
- 3) 土壌病害抵抗性は品種によって異なるので、品種・土壌条件により土壌消毒または接ぎ木を行う必要がある。
- 4) 橙色系は他色系に比べて、高温期に乾燥すると裂皮が発生しやすいので、ハウス内の湿度を保つ。

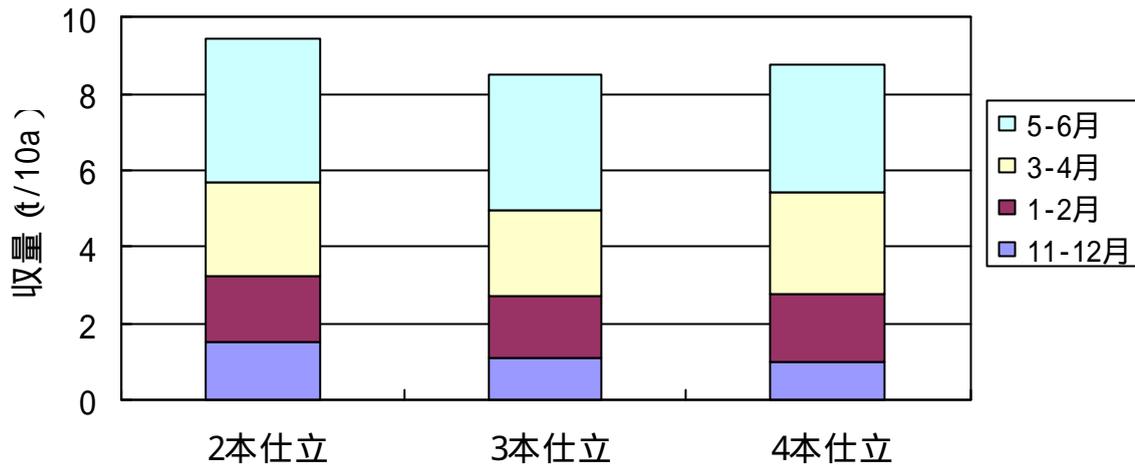


図1 時期別の商品果収量(12年度/品種:スピリット)

表1 主枝仕立て法の違いが収量・品質に与える影響

年度	仕立法	株間	栽植密度 (株/a)	商品果収量 (t/10a)	一果重 (g)	商品果率 (%)
11年度	2本	25cm	250	9.5	155	88.0
	3本	35cm	178	8.5	150	83.1
12年度	2本	25cm	250	9.4	161	82.4
	3本	37.5cm	167	8.5	164	84.0
	4本	50cm	125	8.8	158	78.4

注) 畦幅1.6m、主枝数500本/a(11年度3本仕立ては534本/a)、  
供試品種:スピリット(赤色系)

表2 種類別の収量・品質(平成11年度)

品 種	商品果収量 (t/10a)	一果重 (g)	商品果率 (%)	果肉厚 (mm)	糖度 (%)	大果率 (%)
スザン(赤色)	10.0	148	88.0	6.7	6.7	47.0
スピリット(赤色)	9.5	155	87.1	6.0	6.8	51.0
カナル(黄色)	9.3	171	83.1	5.4	7.3	41.0
パプリオン(橙色)	8.8	142	81.4	6.6	7.7	45.0

注) 仕立て数:2本仕立て(主枝5000本/10a)、大果率:150g以上の果実の割合